

科学技術政策担当大臣等政務三役と
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合
議事概要

- 日 時 平成27年3月26日（木）10：33～11：14
- 場 所 中央合同庁舎8号館 8階特別大会議室
- 出席者 平副大臣、松本政務官、原山議員、久間議員、大西議員、小谷議員、
橋本議員、平野議員
阪本内閣府審議官、森本統括官、中西審議官、中川審議官
サイエンストークス
日本商工会議所 荒井委員長、朽原理事、市川副部長

○議事概要

- 原山議員 おはようございます。

ただいまから、科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合をスタートさせていただきます。

本日は、議員のほうでは内山田さんと中西さんが御欠席ということでございます。

本日、議題は2つございますが、公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ではプレス、お願いいたします。

（プレス入室）

議題1. サイエンストークスからの第5期科学技術基本計画への提言

○原山議員 ただいま第5期基本計画の準備の真っ只中というところでございます。その中でも、世界各国でいろいろな動きがあることも事実ですし、また日本の中でも我々だけが議論しているわけではなくて、様々な団体が議論しておりまして、本日その2つのケースなんですけれども、サイエンストークスというグループがございます。と同時に、2番目のほうの議題ですけれども、日本商工会議所から現在検討していらっしゃるものの御提案をいただきたいと思えます。

サイエンストークスは皆さんお聞きになったことないと思うんですけれども、スタイルも今

までと違って非常に若手の方たちが、特に研究者の方がコアとなっておりますが、自分たちのこととしてこれを考えたいということでもって御提案いただいております。

ですので、初めの議題1としまして、サイエンストークスからの第5期科学技術基本計画への提言ということでもって初めに御報告いただいて議論させていただければと思います。よろしくをお願いします。

<サイエンストークスより説明>

○原山議員 ありがとうございます。

限られた時間ですけど、コメント、リアクションございましたら、どうぞ、こちらサイドから。ちょっと対話ができればと、ほんと数分しかないんですけども。

○平副大臣 おもしろかったです。

すみません、1点だけ。プロジェクトじゃなくて「ひと」というところがすごい興味深いんですけど、その「ひと」をどう選ぶか、日本では権威についてしまう傾向がありますよね。そこをどう工夫したらいいのかなと思ったんですけど。

○サイエンストークス そこは、1つは、先ほどのデータベースをまとめていく。その「ひと」の実績を一元的にまとめたサイトをつくる。そこに、ある種の数値的なものも入れていく。論文ですと、例えば、それぞれの論文で引用数というのが非常に客観的に出てくるんですね。こういったものを数値化して可視化できるようにすることは技術的に可能です。そうしますと、権威だけにつけるということは減っていくんじゃないかと思われまます。

○原山議員 ほかにどなたかございますか。

それこそ第5期のカバーする期間というのは、皆さんが主役になる時であるので、主体的に自分たちも行動をとるし、だけれども、政府としてもしていただきたいという要望がここに書かれていると思うんです。ですので、これまでのアプローチをちょっと違うもので非常にありがたいし、今後こういう作業というのは一緒に巻き込みながらというのが私個人的には、最初からちょっとコミットしているんですけども、続けていきたいと思っております。

よろしいですか。

本日はどうもありがとうございました。（拍手）

議題 2. 日本商工会議所「第 5 期科学技術基本計画への期待～地方創生と中小企業の観点から～」

○原山議員 続きまして、今準備いたしますが、日本商工会議所から「第 5 期科学技術基本計画への期待－地方創生と中小企業の観点から－」ということで御説明いただきます。

今日の主役は荒井さんです。すでに皆さん御存じだと思うんですが、日本の知財戦略に関して一番最初にこういう流れをつくったのが荒井さんというふうに私は認識しておりますし、知財立国という言葉が出てきたのも荒井さんがいらっしゃったからだと思っております。でも、本日は顔を変えて、立場をお変えになって日本商工会議所の視点からお話しいただくということでお願いいたします。どちらかというところフォーカスがこれまで我々の中でなかなか議論し切れていなかった地方の話、地域の話もありますし、中小企業という視点から特に御説明いただければと思います。

お座りになって結構ですので、よろしくお願いたします。

<日本商工会議所 荒井委員長より説明>

○原山議員 ありがとうございます。

ここから御質問、議論に入りたいと思いますが、いかがでしょうか。

○平副大臣 中小企業政策、私もずっと携わってきましたけども、中小企業のものづくりの創意工夫とイノベーションを余りごっちゃにしちゃいけないんだというふうに思っていて、商工会議所としては、ものづくりの生産性を上げるとかといった創意工夫とイノベーションを分けているんですか。それとも、ものづくりで創意工夫をやっているところは支援するというのもまとめてイノベーションという括りなのか。

○荒井委員長 ものづくりをやっていて、成長して世界中に売れる、グローバル・ニッチになるような、そういう企業もありますが、しかし、従来のように、大企業から言われてしっかりした部品をつくるという立派なものづくりだけだと、国際競争に勝てませんから、そこは思い切って転換するということが必要だと思います。どちらかというところ、従来の発想にこだわらずに、もっと新しいことでやっていく視点を商工会議所としても入れたいということでございます。

○原山議員 先ほどのサイエンストークスの話に絡めて考えると、やはり大学の研究者、特に

若手というのは、これまでの研究を淡々やるのと同時に、いろいろなことをチャレンジしたい人がいるんですね。片や、中小企業でよく言われるのが、地方の大学であっても大学の敷居が高いとか、先生というのは高い立場から話すところがあり、自分自身もどうやって自分の問題を説明していいかわからないというギャップがあるというんですけども、それは構えていくと難しいんですけども、日ごろ何か軽い話ができる場というのをつくることが重要なと思います。特に中小企業の方たち時間ないんですね。自分たちのことで精一杯で、明日のための努力をしないと成り立たない状況にあって、ですので、そういう状況にあって、自ら産学連携に乗り出すことは多分不可能な話であって、やはりそういう場というものを仕掛けていくことが重要な。そういう意味で、自分ではできなくても、地方の先ほどクラスターとおっしゃったんですけども、商工会議所もありますし、またはもっと緩い形のというか、そういうものの仕掛けもやはりつくっていただきたいなと思います、大学も巻き込みながら。

○荒井委員長 そこは全く同感でございます。大学の先生の、自分は世界一の研究をしているという意識、それは大事だと思いますが、そういうお気持ちと、中小企業から見ると今のお話のとおり敷居が高いのは事実でございます。中小企業も実際にお話ししてみると、大学の先生も頼りになることが分かる。ところが、なかなか敷居が高いので、今のお話のように、もっとフリーに出会う場を作れば良い。それから、大学の先生にとっても、いろいろないい研究の材料が中小企業に山ほどありますので、そういうものをお使いいただいたら良いと思います。双方にとってウイン・ウインだと思います。

○久間議員 我々も地方創生に向けてどうするべきかという委員会をつくり活動していますが、いろいろなパターンがあると思います。1つは、荒井さんがおっしゃった既存のグローバル・ニッチ・トップ企業をより強くする。また、新しいGNTを育成する戦略。2つ目は、第5期科学技術基本計画では、日本の次の骨太の新しい産業を生み出す仕組みをつくらなくては行けないと考えています。そのとき、大企業と中小企業が連動してつくるのだという戦略が重要です。それから、さきほど話題になった地域クラスター、そして中小企業に対する補助金的なものもあります。このように4つぐらいに分けて、それぞれに対する具体的な施策のうち、日本商工会議所は何をやる、国は何をやる、大学は何をやるというような役割を明確にさせていただくと、分かりやすくなると思います。

○荒井委員長 今の御指摘の点を頭に入れてこれからの活動をやってまとめていきたいと思えます。

○松本政務官 ありがとうございます。今日はお2方から発表いただいたわけでありませけれども、今の日本商工会議所さんの御提案をいただいて、若手の研究者がどういう感想を持ったかというのを、是非私聞きたいと思って、逆にサイエンストークスさんから今の商工会議所さんの御提案を受けて、どういう感想をお持ちになられたのか、是非お聞かせいただきたいと思います。

○サイエンストークス 若手の研究者として意見を述べさせていただきますと、中小企業さんとの共同研究で非常に魅力的というかおもしろそうなことがウイン・ウインの関係という言葉が出ましたけれども、出そうな気持ちがするんですね。しかしながら、若手の研究者は実はそんな余裕がないんですね。いいジャーナルに論文を出さないと自分のポジションが危うくて失業するという状況ですので、中小企業さんと共同研究する余裕がありません。ですが、先ほど御提案させていただいたような、ポジションと研究費がある程度最低限安定しますと、自由度が格段にあがりますので、その地域の周りにいらっしゃる中小企業さんと自由なおもしろそうな共同研究ができるようになるというふうに感じました。

○原山議員 1つ、私もスイスの事例なんですけれども、連邦工科大学でもって研究者になる前の学生が結構サイエンスパークに入っているベンチャー企業のところにアルバイトに行っていたんです。それはもちろん自分の論文とか学業をしながらに、と同時に、週の何時間というのをそこでおもしろい体験をして、またそれを持ち帰って、その一つのトレーニング、1つの枠組みに入っているというのがひとつみそかなと思っています。それも可能じゃないかと思うのと、それからもう一つ、若手と同時にシニアの使い方だと思うんです。シニアってお荷物的に考えちゃうんですけども、給料ばかり持って行って。彼らは結構幅広い体験を持っているので、その人たちが音頭取り役して、その中に部分的なところで、君、これできないかというのを若手に振り分けるとか、そういういろいろなやり方を考えていくことが可能かなと思います。でも、その枠組みがないと、なかなか行動をとれないので、やはりそういう場というのをつくっていただくことが肝心かと思っています。

○荒井委員長 中小企業もインターンシップの受け入れとか大学との連携に、関心を持っています。というのは、中小企業自身、今までは大企業から仕事をもらってればよかったのに、自分でシーズを見つけていかなければいけない、発掘していかなければいけないという気持ちが強くなっています。大学あるいは学者目線をうまく入れてシーズの開拓、研究をしたいという気持ちが強くなっています。うまくそういうプラットフォームができたり、仕組みができた

りすればいろいろ効果が出ます。明治以来、日本全国各地の高等専門機関、高専は、各地域で中小企業や大企業の誕生や発展に貢献しています。日本の発展に大変尽くしてきました。戦後、象牙の塔に入った時期もありましたが、本来は大学に行かされている方も日本のために役に立ちたいという、お気持ちは強いので、連携はうまくいくと期待をしております。

○原山議員　そろそろ時間になりましたので、本日は本当にありがとうございました。

サイエンストークスの皆さん、それから日本商工会議所さんに感謝いたします。今後とも引き続き連携させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○荒井委員長　どうもありがとうございました。（拍手）

○サイエンストークス　ありがとうございました。（拍手）

○原山議員　これもちまして本日の会合を終了させていただきます。

以上